

自然と共生する

豊かな暮らし

「わざ技とえにし縁のまち飯山」

飯山市第5次総合計画

基本構想

飯山市

飯山市第5次総合計画

基本構想

は じ め に

「自然と共生する豊かな暮らし」の
実現を目指して



飯山市長 **足立 正則**

このたび飯山市では、平成25年度から10年間のまちづくりの指針となる「飯山市第5次総合計画」を策定いたしました。

近年、急速に進む人口減少と少子高齢化、経済のグローバル化、高度情報化、東日本大震災を契機とするエネルギー政策の見直しなどによって私たちを取り巻く社会情勢は大きく様変わりしています。また、社会経済的な価値観もこれまでの大都市集中型の経済成長モデルから、自然の恵み、風土、伝統文化、伝統産業、暮らしなどといった地方にしかない資源が再認識され、その価値が世界的にも注目されはじめています。このような時代の流れの中で、飯山市には、豪雪に守られた自然生態系、景観、風土、雪国ならではの生活の知恵や伝統文化など時代が求めている資源があふれています。それに加えて、平成27年春には北陸新幹線飯山駅開業という最大のチャンスがめぐってきます。

市民の皆様一人ひとりの手によってこの豊かな資源から新たな価値を創造し、広域的な連携やネットワーク、つながりを通じ、市をあげて国内外に広くその価値観を発信し、「訪れたいまち、住み続けたいまち 飯山市」をつくっていくことが、これからの10年間の最大のテーマであると考えます。

私たちを取り巻く社会情勢は、今後さらに急速に変化することが予想されますが、その変化に対応するためには、ニーズを的確にとらえながら、課題を迅速に解決することが何よりも重要です。この計画で目指す将来都市像の実現に向けて、これからも市民の皆様、市内外の民間企業、団体の皆様の参画を得て、情報を共有しながら知恵と力を結集し、事業を実施してまいります。

策定にあたり熱心なご議論と貴重なご提言をいただきました多くの皆様に心から感謝申し上げますとともに、計画達成に向けて市民の皆様方のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成25年3月

目 次

第1章 まちづくりの考え方

1 飯山市第5次総合計画の構成と期間	1
2 現況と課題	2
(1) 第4次総合計画の総括	2
(2) 課題	6
3 基本理念	7
4 将来都市像	8

第2章 まちづくりの基本的方向

1 まちづくりの方向性と分野区分	9
(1) 自然共生による新しい価値観の発信	10
(2) 飯山の四季の美しさを活用したまちづくり	11
(3) 高速交通網による交流の促進	12
(4) 地域産業おこしと若者定住	13
(5) たくましさと郷土愛を育てる教育	14
(6) 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち	15

第1章

まちづくりの考え方

1 飯山市第5次総合計画の構成と期間

総合計画は、10年後の飯山市の将来都市像を描き、その実現に向けた方向性や目標を示した行政運営の最も基本となる計画です。総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画の3つで構成されています。

将来都市像

基本構想

基本構想は、現状や課題を踏まえて、飯山市が目指す将来都市像とそれを実現するため、総合的な視野に立ち、体系的で実効性のあるまちづくりの基本的方向を示す最上位の計画です。計画期間は、平成25（2013）年度から平成34（2022）年度までの10年間とします。

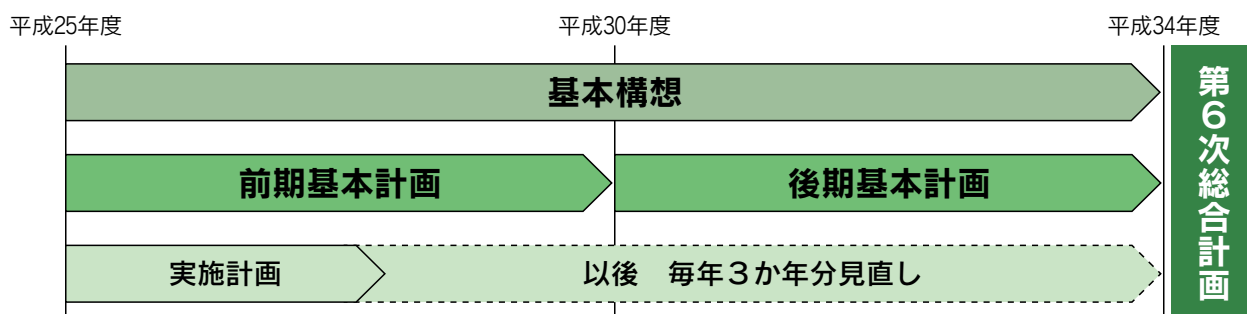
基本計画

基本計画は、基本構想実現に向けて行政分野ごとの現状と課題を踏まえて施策や目標を体系的に示します。計画期間は、基本構想の計画期間を前期5年、後期5年に分けて策定します。後期基本計画は、前期基本計画の達成状況や社会情勢の変化等を踏まえて内容の見直しを行います。

実施計画

実施計画は、基本計画に基づき実施される具体的な事業内容を定めるものです。飯山市の課題やニーズ、目標実現に的確に対応できる効果的な行政運営を行うために計画期間は3年間とし、毎年度内容を見直しながら柔軟でスピーディーな運用を進めます。

第5次総合計画の期間



<参考> これまでの飯山市の総合計画

- | | |
|---------|---|
| 第1次総合計画 | 「住みよいふるさとの園」（昭和48～57年度） |
| 第2次総合計画 | 「自然と文化が調和するふるさと定住都市をめざして」（昭和58～平成4年度） |
| 第3次総合計画 | 「ゆとり生むまち 新・生活実感都市をめざして」（平成5～14年度） |
| 第4次総合計画 | 「輝け いいやま！ かえる宣言
～おらもやる あんたもやろうや いいやまづくり～」（平成15～24年度） |

2 現況と課題

飯山市では、平成15年2月に第4次総合計画を策定しました。この計画に基づき、平成24年度を目標年次として、50年、100年後も輝き続ける都市を目指して協働するまちづくりを進めてきました。

このたび、平成24年度で第4次総合計画の計画期間が満了し、平成25年度から平成34年度までの飯山市第5次総合計画を策定するにあたり、計画期間中における市の主な取組みについて総括し、今後の課題を整理しました。

(1) 第4次総合計画の総括

① 北陸新幹線飯山駅周辺整備

平成27年3月の北陸新幹線飯山駅の開業に向けて、新幹線関連事業、飯山駅周辺整備事業については、平成17年3月に駅周辺土地区画整理事業や都市計画道路、駅前広場などの都市計画決定を行い、北信州の交通結節点としてのまちづくり、施設整備を行ってきました。厳しい財政状況下で市民の皆様をはじめ、関係者の協力により計画どおり着実に実施することができました。

② まち並整備

北陸新幹線飯山駅周辺整備とともに、飯山駅を基点としたまち並の整備を重点的に進めました。特に「高橋まゆみ人形館」は、全国各地から多くの方に訪れていただける飯山市を代表する観光スポットとなりました。

また、飯山まちづくりデザイン会議による提言を踏まえ、修景整備や市民活動への支援など取組方針に関する基本的な計画をするとともに、ＪＲ飯山駅前の仁王門の整備、(仮称)飯山ぶらざの建設、飯山城址公園の整備等に向けた具体的な取組みをスタートすることができました。



③ 移住定住対策

全国的な人口減少が続く中、飯山市では全国に先駆けて移住定住に関する対策を進めてきました。平成18年11月に「いいやま住んでみません課」を設置し、都市住民に積極的に情報提供や住宅建設補助等の支援をした結果、平成24年までに約300人の移住実績を上げることができ



ました。しかしながら、市内の人口減少には歯止めがかからず、第4次総合計画の前年度である平成14年度末の長野県毎月人口異動調査人口が25,585人であったのに対して、平成23年度末には22,879人となり、村部を中心に少子高齢化、集落機能の維持が大きな問題となっています。

④ 産業振興対策



飯山市にとって農業は、産業の中心的存在です。農産物の高付加価値化、後継者対策、農地の適正な管理や意欲ある経営体の育成など国の農業政策の動向にあわせながら関係団体とともに様々な農業振興対策を講じてきましたが、農業産出額や農家戸数は減少傾向にあり、特に農業後継者対策が急務となっています。また、商工業の分野においては、新幹線開業を見据えた立地企業支援、

商店街活性化支援等の取り組みを進めてまいりました。

新幹線開業に向けた観光分野における飯山市の最大の取り組みは、平成24年1月に飯山市、中野市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村、妙高市、信濃町、飯綱町により「信越9市町村広域観光連携会議」を設立したことです。

新幹線駅から各観光地への2次交通や観光案内所機能の構築などの基盤整備事業、信越エリアブランド化、誘客宣伝事業などにより、アジアを代表する「高原・スノーリゾート」地域を目指す、新たな取り組みをスタートしました。

また、信州いいやま観光局と連携しながら観光客の市街地への誘導、インバウンド関係事業の推進を強化するなど各種施策を展開しました。



⑤ 教育

教育分野では、豊かな感性とたくましい心と身体を育て、創造的に自らの夢に挑戦するとともに、ふるさとの未来をひらく児童生徒の育成を目指した「飯山らしい学校教育計画」を平成21年度に策定し、家庭や地域との連携を図るため秋津小学校にコミュニティ・スクールを設置するとともに、幼稚園・保育園、小中学校、高等学校との連携、加配教員の配置、学力向上のための取組みなどを進めました。また、今後の児童・生徒数の減少を見据えて平成22年度には市内3校の中学校を2校に統合し、教育環境の充実を図りました。



⑥ 子育て・福祉・医療



子育て分野では、第3子以降の保育料無料化、延長保育や一時保育、児童センター等の充実や医療費の補助を中学校卒業にまで拡大するなどの支援を積極的に進めました。また、外様保育園と柳原保育園の統合を行い、保育の機能充実も図りました。

福祉・医療分野では高齢者を中心として筋力アップ教室や転倒予防教室といった介護予防や健康づくりへの取組みを進めました。また須多峰介護センターの整備、地域中核病院の補助や医師確保の取組み等を通じて介護・医療体制の充実を図り、子どもから高齢者まで誰もが健康で暮らせるまちづくりを進めました。

⑦ 協働のまちづくり



協働のまちづくりは、第4次総合計画の根幹をなすものであり、地区や集落との対話を積極的に進めました。また、地域の基盤である道路や水路、山林等の整備について地区や集落を総合的に支援するとともに、集落や公共的団体の創意工夫による自主的な取組みを継続的に支援し、安全・安心で活力ある地域づくりを進めました。

協働のみちづくり事業では、年平均で約40箇所を整備を実施し、輝く地域づくり支援金（旧 悠久のふるさとづくり支援金）では、平成20年度から4年間で約70件の補助を実施しました。また、地区・集落単位での座談会や懇談会を開催し、課題を共有し、協働のまちづくりに取り組んでまいりました。

(2) 課題

① 日本の社会情勢

戦後一貫して増加してきた我が国の総人口は、平成16年の127,787千人（総務省統計局資料）から減少に転じ、日本全体が人口減少、少子高齢化社会に突入しました。それとともに、アジア諸国の台頭や円高の影響など様々な要因により日本経済の中心とも言うべき輸出型産業は大きな打撃を受け、日本経済の低迷が続いています。

また、IT技術や交通の発達、中進国の台頭によって、経済はグローバル化が一層進展し、日本の産業は、全世界を相手として激しい競争にさらされています。

大企業だけでなく、中小企業の製造部門は、材料、部品等の調達先を海外に求めるとともに、その生産拠点を海外に移転させ低コスト化による生き残りを図っていますが、これによって国内の産業空洞化が更に進み、雇用の縮小は日本の産業構造に大きな影響を与えています。

② 飯山市の課題（今後10年間の変化と対応）

北陸新幹線飯山駅開業

平成27年3月、北陸新幹線飯山駅の開業により首都圏、北陸圏、関西圏とこれまで以上に短時間で往来できる時代を迎え、豊かな自然に恵まれた飯山市がこのチャンスをどのように活かし、市の発展に結び付けるかが大きな課題です。

人口減少

飯山市は、市制施行後人口減少の一途をたどっています。日本全体が人口減少に転じた中で若者定住、人口維持に向けた取り組み、集落機能維持のための対策をどのように進めるかが重要な課題です。

地域の産業振興

北陸新幹線飯山駅の開業を迎え、地域の産業振興、若者の働く場の確保に向けた更なる取り組みが重要であり、人口減少を抑制し、市内に活気をもたらすための対策を進めなければなりません。

安心して住み続けられる地域づくり

本格的な少子高齢化社会の到来、核家族化や単身世帯の増加、家族意識の変化などにより、地域社会では人びとのつながりが薄れつつあり、地域住民は、医療や介護、子育て等への不安や負担など、多様な課題を抱えています。安心して暮らすことができる地域づくりを一層進める必要があります。

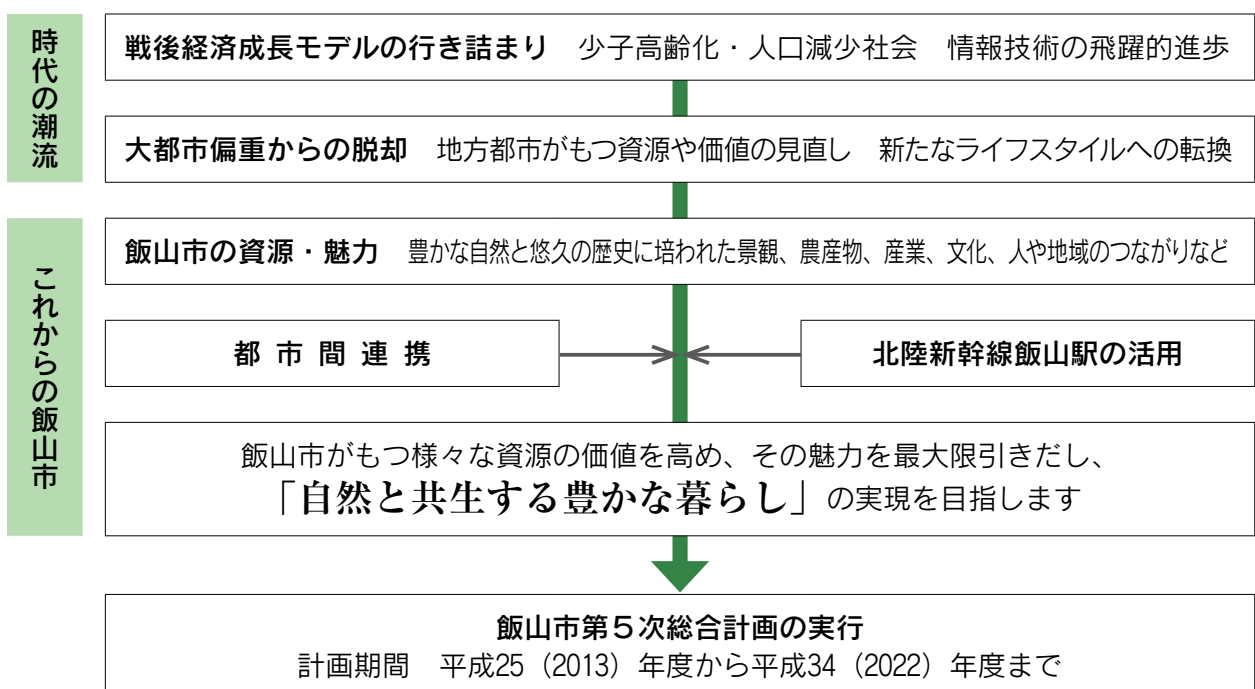
3 基本理念

飯山市は、四季の変化に富んだ自然、先人から脈々と受け継がれてきた豊かな農地や山々、長年の歴史に彩られた特色ある伝統文化や産業を背景として、日本海と信州を結ぶ交通の要衝として古くから発展してきた都市です。

日本有数の豪雪地である雪国・飯山市の暮らしは、お互いに支え合う温かみのある地域をつくり、その暮らしの中で培われた英知と技術は、飯山市を全国に誇れる各種農産物の一大産地に成長させ、また、雪国ならではの生活や文化を色濃く反映した産業を生み出し、発展させてきました。

このように今日の飯山市の成長の原点は、厳しくも豊かな「自然」であり、その環境で培った「産業技術」、そしてそこに暮らす人々の「支え合いや助け合い」のある暮らしだと言えます。またこれらこそが、飯山市にとって無二の資源であり、今後の飯山市の更なる発展に欠くことができない重要な要素です。

北陸新幹線飯山駅開業を契機として、北信州や信越地域の広域連携の拠点となる飯山市が、子どもや高齢者はもちろんのこと現役世代にとっても住みやすく、安心やゆとりが実感できる生活を送ることができる「自然と共生した新たな価値創造の都市」として更に発展することを目指し、市民一人ひとりが主役となってまちづくりを進めましょう。



自然と共生する豊かな暮らし

「^{わざ}技と^{えにし}縁のまち 飯山」

自然との共生

飯山市の四季の美しさ・豊かな自然は、大都市では決して手に入れることのできない貴重な財産です。厳しくもかけがえのない自然環境を守りながら、飯山市の気候、地形、特性等を踏まえ、人と自然とが調和した快適で持続可能な豊かな暮らしを創出します。

技を磨く

飯山市には素晴らしい地域資源や素材が豊富にあります。しかし、人の「技」がなければそこから価値を生み出すことはできません。地域の暮らしを支えてきた産業の技を更に磨くとともに、新しい活用技術にチャレンジし、新たな価値創造を目指すとともに「飯山のブランド」を全国に発信します。

^{えにし}縁はぐくむ

人と人、人とモノ、地域と地域など、あらゆるつながりやネットワーク、関わり合いによって生み出される社会を取り巻く様々な動きを「縁（えにし）」と捉え、新幹線によって新たに結ばれる縁とともに、これまで先人が培ってきた地域で互いに支え合う縁をまちづくりの柱として更にはぐくみます。

地域や都市との連携、交流を進め、それぞれに特徴をもつ地域が相互に補完し合うことによって、「訪れたいまち、住み続けたいまち 飯山市」をつくれます。

第2章

まちづくりの基本的方向

1 まちづくりの方向性と分野区分

まちづくりの基本理念を踏まえ、将来都市像の実現を目指すため、本市における総合的な行政分野の方向性を6つの分野ごとに定めます。

将 来 都 市 像

自然と共生する豊かな暮らし
「^{わざ}技と^{えにし}縁のまち 飯山」

(1) 自然共生による新しい価値観の発信

産業連携 自然景観 克雪・利雪 自然エネルギー 環境 情報化

(2) 飯山の四季の美しさを活用したまちづくり

土地利用 都市・地域基盤

(3) 高速交通網による交流の促進

観光・交流 公共交通

(4) 地域産業おこしと若者定住

産業技術支援 農林業 商工業 雇用 移住定住

(5) たくましさと郷土愛を育てる教育

教育 生涯学習 文化 スポーツ 人権

(6) 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち

福祉 子育て 保健 医療 安全・安心 市民協働 行財政

前期基本計画で分野ごとの施策等を定めます。

(1) 自然共生による新しい価値観の発信

- ◆飯山市だからこそできる、飯山市にしかない強みや魅力を再認識し、その付加価値を高め、産業や地域に活力を生み出す取り組みを市民、学術・研究機関や関係行政機関との広域的な連携などを通じて進めます。
- ◆生活に潤いや安らぎを実感できるよう飯山の原風景を守ります。また、豊かな自然環境を地域の宝として育て、産業等に活かし、持続可能な地域づくりを進め、発信します。
- ◆冬の暮らしを更に快適にするための取り組みを進めます。
- ◆行政だけでなく企業や団体など一体となって飯山市の魅力を伝える取り組みを一層充実し、発信します。



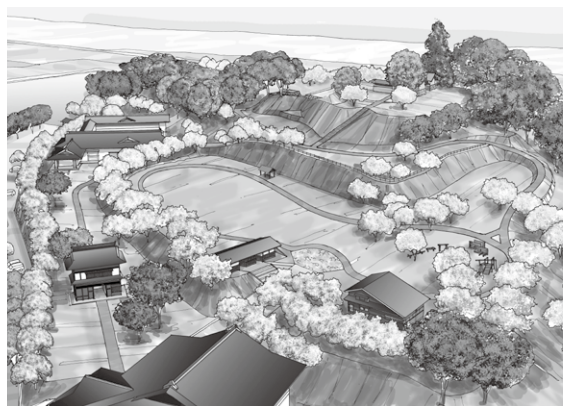
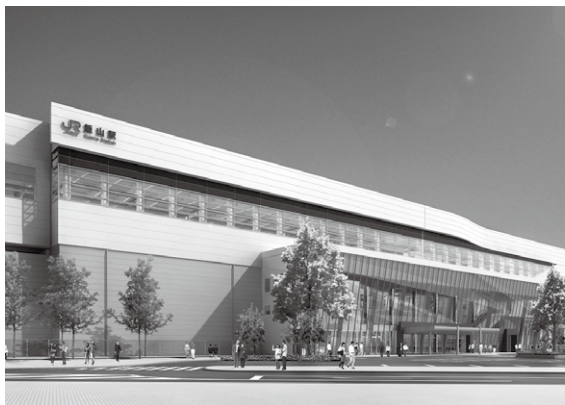
(2) 飯山の四季の美しさを活用したまちづくり

- ◆自然環境と調和したふるさとの持続的な発展や成熟を支える礎（いしずえ）となるまち並みの整備を進めます。
- ◆北信州の玄関口にふさわしい自然景観を活かした飯山駅周辺の整備を進めます。
- ◆飯山まちづくりデザイン会議の提案に基づき、「歴史と自然に彩られたふるさと飯山まちづくり」を市民とともに進めます。
- ◆地域の伝統文化や自然を活かしたまちづくりを進めます。



(3) 高速交通網による交流の促進

- ◆北陸新幹線飯山駅を中心として近隣市町村や長野県、民間事業者等と一体となって豊富な地域資源や地域の特性を最大限活かしながら、国内外に通用する魅力ある観光地づくりを進めます。
- ◆市民それぞれが役割をもち、得意分野を活かし、飯山市の魅力を伝え、心に残る温かいおもてなしができる取組みを進めます。
- ◆飯山市の歴史、まち並み、自然の素材を活用し、来訪者には感動を、市民には自信と誇りがもてる飯山市を創出します。
- ◆飯山の「地の利」を活かした都市住民との交流の場づくりを進めます。



(4) 地域産業おこしと若者定住

- ◆農業、商工業などあらゆる産業分野における技を更に磨き、新しい活用技術にチャレンジすることで、豊富な地域資源から新たな価値を生み出し、売り出すことで地域に活力と雇用を生み出す取組みを進めます。
- ◆医療や福祉、観光・イベントやスポーツ大会などをはじめとした関連分野の経済連携に取り組めます。
- ◆飯山市を生活の拠点として若者が飯山市に住み続けることができる取組みを進めます。
- ◆北陸新幹線飯山駅開業を契機として人口増加に向けた取組みを進めます。



(5) たくましさと郷土愛を育てる教育

- ◆この地域の自然や生活、歴史や文化の学習、スポーツを通して、豊かな感性と郷土愛を育て、学校と地域・保護者が連携して、自らの夢を実現し、世界に挑戦するたくましい児童生徒の育成を目指し、より良い教育環境をつくります。
- ◆地域と一体となって大人も子どももふるさとに誇りと愛着をもつ教育を進めます。
- ◆国際交流等を通じて、幼少期から国際感覚を養います。
- ◆新しい時代に生きる児童生徒の確かな学力の向上を図ります。
- ◆個性や多様性を尊重し、すべての人が互いに支え合いながら、共に生きることができる社会の実現を目指します。



(6) 子どもから高齢者まで安心して暮らせるまち

- ◆多様な活動主体の参画による協働のまちづくりを進めます。
- ◆集落や近隣でお互いに見守り、支え合う地域づくりを進めます。
- ◆安心して子どもを産み、いきいきと暮らせる子育て支援の充実を図ります。
- ◆生きがいづくり、健康づくりの活動を地域や市民各層へ広げます。
- ◆災害を防ぎ、災害に負けない、日々の暮らしが安全で安心できるまちづくりを進めます。
- ◆近隣自治体と相互に役割分担し、効率的で質の高い行政サービスを提供するとともに、災害時における連携・協力関係を強化します。



飯山市第5次総合計画市民策定委員会 あとがき

平成24年7月19日、11人の市民策定委員によって第5次総合計画の原案策定作業がスタートしました。策定委員会では、平成23年度に実施した基礎調査や市民アンケートの結果等も参考にしながら、飯山市の「強み」や「弱み」、飯山市の今後の課題や方向性、「実現したいまちの姿」などについて議論を重ねました。

その中で、飯山市の将来のまちづくりを考えたときに、「人とのつながりやふれあい」、「交流・共生」、「地域の一体感」は、これまでの飯山市を形成してきた不可欠な要素であり、少子高齢化や人口減少の中で、北陸新幹線飯山駅開業を大きなチャンスとして、人やモノのつながりや関わり合い、地域や都市との連携を今まで以上に大切に、まちづくりの大きな柱としていくべきであることを全員で確認しました。

この計画は、これからの飯山市の10年間を方向付ける重要な計画です。この計画が、市内はもちろんのこと全国や世界の人々と、そして先人から子孫へと「縁」をはぐくみ、自然にあふれる私たちのふるさとながこれからも輝き続けるための指針となることを願っています。

平成25年2月

飯山市第5次総合計画市民策定委員会委員一同

「実現したいまちの姿」 縁はぐくむまち 飯山

—飯山市第5次総合計画市民策定委員会の議論から—

飯山駅を中心としたにぎわいと四季の豊かな自然が共存するまち

- ◆雪を徹底的に研究し、雪を売り、雪を消すビジネス・モデルを実現
- ◆空き家を利用したアトリエや展示施設の設置・飯山の伝統産業を活かし、芸術家が集う
- ◆飯山の「地の利」を活かして、都市住民の癒しとふれあいの空間がある
- ◆プロ・全国規模のスポーツ大会等が招致できる施設や受入体制が整備されている
- ◆全国から若者が集う観光、スポーツ、農業分野など特色ある教育機関を設置する

たくましさと郷土愛を育てる教育のまち

- ◆国際交流等を通じて世界の広さを体感でき、幼少期から国際感覚や語学力が身につく
- ◆全国の学力レベル上位を目指す教育プログラムがある
- ◆地域と一体となって大人も子どももふるさとに誇りと愛着をもつ教育を進める

子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせるまち

- ◆0歳児からの保育サービスを充実
- ◆365日・24時間体制の小児科医療
- ◆CATV網を活用して家にいながら健康相談や見守り・安否確認ができる
- ◆いつでも・誰でも使える市街地循環バスが走る
- ◆FMラジオで観光や暮らしの情報がいつでも聴ける
- ◆市内で先進医療が受けられる

第5次総合計画策定経過

平成24年 7 月19日	第 1 回市民策定委員会
平成24年 8 月28日	第 2 回市民策定委員会
平成24年 9 月12日	第 3 回市民策定委員会
平成24年10月 1 日	第 4 回市民策定委員会
平成24年10月18日	第 5 回市民策定委員会
平成24年10月30日	第 6 回市民策定委員会
平成24年11月13日	第 7 回市民策定委員会
平成24年11月22日	第 8 回市民策定委員会
平成24年11月27日	第 9 回市民策定委員会
平成24年12月26日	第10回市民策定委員会
平成25年 1 月31日	第11回市民策定委員会
平成25年 2 月 4 日	第 1 回基本構想審議会
平成25年 2 月12日	第 2 回基本構想審議会
平成25年 2 月15日	基本構想 答申
平成25年 2 月26日	基本構想 議案提出
平成25年 3 月18日	第 3 回基本構想審議会
平成25年 3 月25日	第 4 回基本構想審議会
平成25年 3 月29日	前期基本計画 答申

飯山市基本構想審議会 名簿（敬称略）

職 名	氏 名	団体名及び役職名
会 長	小 林 仁	飯山商工会議所 会頭
副会長	松 永 晋 一	飯山市農業委員会 会長
委 員	岸 田 勉	飯山市民生児童委員協議会 会長
委 員	今清水 豊 治	飯山市区長会協議会 会長
委 員	佐 藤 重 雄	北信州みゆき農業協同組合 代表理事組合長
委 員	大 坪 幸 雄	一般社団法人信州いいやま観光局 理事
委 員	吉 越 利 明	一般社団法人みゆき野青年会議所 理事長
委 員	小 林 常 男	飯山市老人クラブ連合会 会長
委 員	清 水 岩 夫	飯山市教育委員会 教育委員長
委 員	坪 井 久	飯山市公民館地区公民館長会 会長
委 員	吉 越 隆 師	飯山市芸術文化協会 会長
委 員	山 崎 正 孝	飯山市身体障害者福祉協会 会長
委 員	岡 本 弘	飯山市消防団 団長
委 員	島 崎 紀 明	北信地区労働組合会議 議長
委 員	関 谷 公 典	飯山市子ども会育成連絡協議会 会長
委 員	栗 原 米 子	飯山市更生保護女性会 会長
委 員	高 橋 美津枝	飯山市赤十字奉仕団 委員長
委 員	滝 沢 保 夫	いいやまNPOセンター 会長
委 員	清 水 侃	飯山市体育協会 会長
委 員	鈴 木 聡 子	飯山くらしの会 会長
委 員	橋 爪 万利子	飯山市男女共同参画推進委員会 会長
委 員	村 石 桂太郎	第5次総合計画市民策定委員会 委員長
委 員	服 部 秀 人	第5次総合計画市民策定委員会 副委員長

飯山市第5次総合計画市民策定委員会 名簿（敬称略）

職 名	氏 名	地 区
委員長	村 石 桂太郎	飯山
副委員長	服 部 秀 人	外様
委 員	小 出 和 博	常盤
委 員	金 崎 隆	太田
委 員	廣 陽 子	岡山
委 員	大 月 肇	瑞穂
委 員	木 幡 喜美子	柳原
委 員	村 田 久 子	常盤
委 員	丸 山 朗	秋津
委 員	小 林 良 太	木島
委 員	岸 田 由美子	太田

飯山市第5次総合計画

基本構想

平成25年度～平成34年度

平成25年3月 飯山市 総務部 企画財政課
〒389-2292 長野県飯山市大字飯山1110-1
TEL 0269-62-3111(代表) FAX 0269-62-5990
E-mail:kikaku@city.iiyama.nagano.jp